

# 産学官連携深化ワーキンググループ (第1回)

共同研究経費の「見える化」に向けた  
名古屋大学の取組

平成28年9月20日

名古屋大学理事・副総長 木村 彰吾

NAGOYA UNIVERSITY

# 名古屋大学における産学連携のメニュー

## 1. 研究シーズ集「unite」

名古屋大学の研究成果を紹介した web 版のシーズ集です。

<http://www.aip.nagoya-u.ac.jp/industry/unite/>

## 2. 技術相談(原則、初回のみ無料)

企業等の研究開発に関わる問題で専門的な判断を必要とするものに対応します。

「技術相談」で、下記の中から最適な制度を紹介します。



## 3. 学術コンサルティング制度

企業等からの委託を受けて本学の教員が、教育、研究、及び技術上の専門知識に基づく情報や知見を委託者に提供する制度です。

## 5. 受託研究制度

企業等からの委託を受けて本学の研究者が研究を実施し、その成果を委託者に報告する制度です。

## 7. 寄附金制度

企業や篤志家などから学術研究や教育の充実などを目的とする経費として受け入れる寄附金の制度です。

## 9. 知的財産の活用

本学の保有する技術・プログラム・ノウハウなどの知的財産にご関心がある場合、「知財・技術移転グループ」にご相談下さい。

## 4. 共同研究制度

企業等の技術者と本学の研究者が共通の課題について対等の立場で共同して研究を行う制度です。  
**新たに「指定共同研究」を創設**

## 6. 受託研究員制度

企業等から技術者を受け入れ、大学院レベルの研究の機会を提供し、その能力の向上を図る制度です。

## 8. 産学協同研究講座・部門

企業の研究拠点を本学キャンパス内に設置する制度です。教員の身分を持つことで、学内の研究設備や教員の知見を迅速かつ円滑に活用できるメリットがあります。

## 10. 装置の利用

保有する一部の装置を産業界に有料で開放しています。

# 名古屋大学 指定共同研究制度（概要）

## 《特徴》

### 《指定共同研究の指定》

・ 学術研究・産学官連携推進本部（以下「学術産連本部」）を含む横断的な体制により研究の企画及び立案並びに成果の管理及び活用等を行うもの指定共同研究として指定

### 《経費の負担》

・ 指定共同研究の相手方は、当該共同研究に係る直接経費及び産学連携推進経費を負担 ※右覧「必要な経費」を参照

### 《研究のマネジメント管理》

・ 指定共同研究ごとに推進協議会を設置し、当該共同研究の企画及び立案並びに成果の管理及び活用を実施  
・ マネジメント管理は、学術産連本部が協力

### 《研究の成果管理》

・ 指定共同研究によって得られた研究成果は、共同研究契約に基づき適正に秘密保持及び管理

### 《研究の実施と成果の報告》

・ 研究代表者は、指定共同研究が完了したときは、共同研究者と協力して実施報告書を作成し、部局長に提出・部局長は当該結果を本部長に報告、本部長は総長に報告

研究開発法人  
民間企業等

シーズ

ニーズ

コーディネート

組織×組織

必要な経費

推進協議会

研究の進捗管理

研究の成果

## 《必要な経費》

### ・直接経費

指定共同研究に専ら従事する研究者や研究の管理運営者の人件費、並びに当該研究のための設備費、謝金、旅費、消耗品費、役務費その他の直接的な経費

### ・産学連携推進経費

指定共同研究の実施に係る研究者や研究の管理運営者（直接経費計上者を除く）の人件費相当額、並びに当該研究の実施に係る施設及び設備の維持管理費、研究基盤の管理経費、事務管理費、研究の企画及び立案並びに成果の管理及び活用に係る経費その他の指定共同研究の遂行に関連して直接経費以外に必要な経費の相当額

### ◎産学連携推進経費はアワーレート方式により積算

共同研究実施にかかる追加的に生じる付随コストを集計し、共同研究実施にかかった時間で割ることで、時間あたり単価＝教員単価を設定

「教員単価」に研究期間等を乗じて関わる教員数に応じて積算

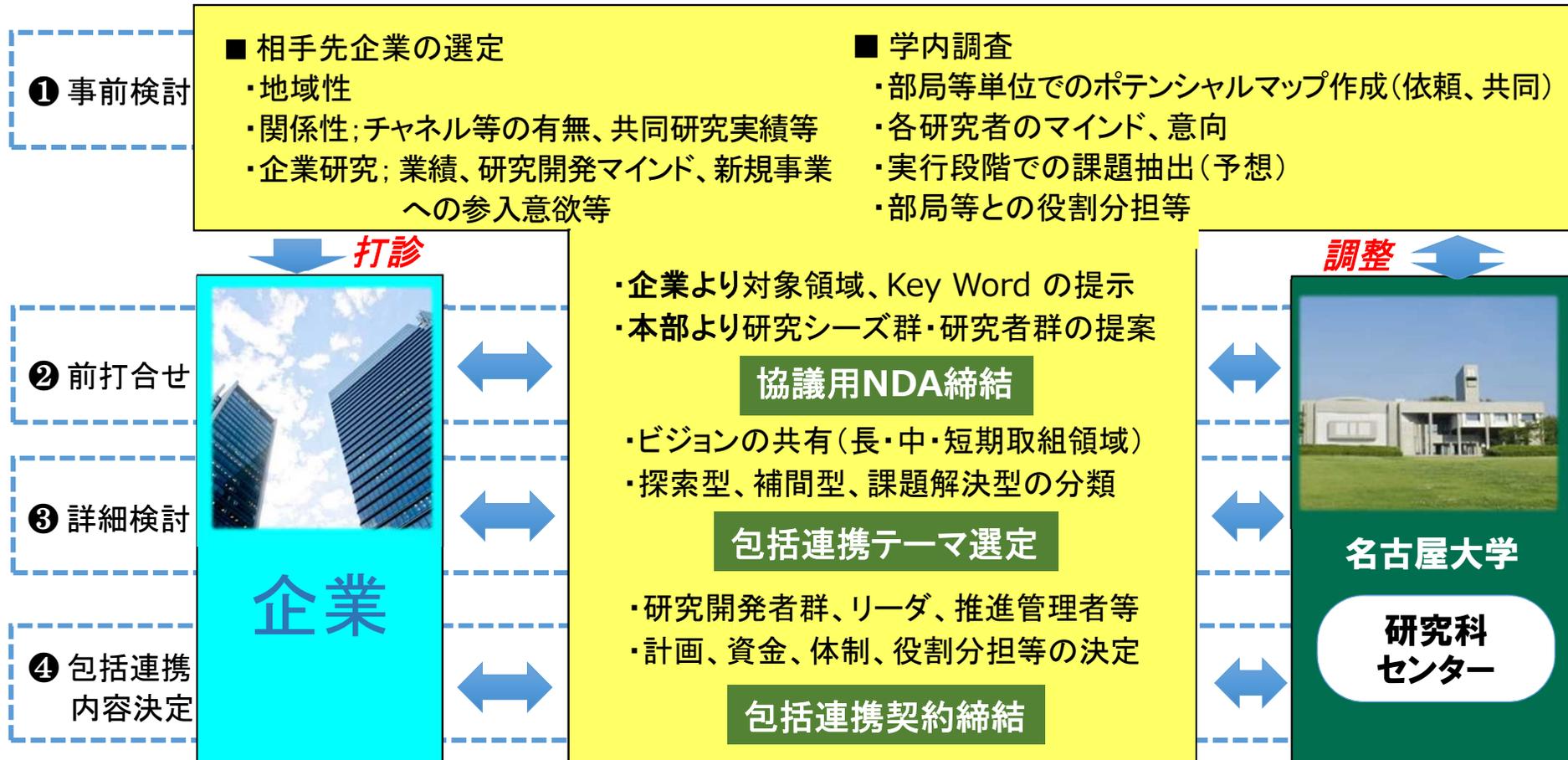
名古屋大学  
NAGOYA UNIVERSITY

学術研究・産学官連携  
推進本部



# 本部先導による指定共同研究の創出

## 名古屋大学 学術・産連本部



三位一体による指定共同研究の開始、推進

# 共同研究の経費の見える化に向けて

1. 費用の集計(実績)
  - 共同研究1件を集計単位
  - 共同研究の遂行に合理的な関係を持つ費用を集計
    - 直接的な因果関係、あるいは努力と成果の対応関係
    - 間接的な因果関係
  
2. 費用の分析(見える化)
  - 何にお金を使っているか？
  - 何のためにお金を使っているか？
    - ムダがあるのか、足りていないのか？
  
3. あるべき経費を算定

# 1. 費用の集計(実績の把握)

# 共同研究における直接経費の考え方

## <直接経費>

- 共同研究を遂行するための経費で、直接的な対応関係が認められる経費



### ○人件費

共同研究に専従するため、新たに雇用する研究代表者、研究担当者、研究協力者の人件費

### ○人件費以外

設備費、謝金、旅費、消耗品費、役務費等

# 指定共同研究における間接経費の考え方

## <間接経費>

- 共同研究を遂行する上で付随的・不可避免的に発生する経費で、その研究成果との対応に間接的な因果関係があり、共同研究経費に含めるのに合理性が認められる経費

### A. 共同研究に供するスペースの維持管理費



建物・研究室・実験室等の維持管理

### C. 共同研究実施に伴う基盤的研究活動経費



図書館・電子ジャーナル・情報ネットワーク・スパコン等

### B. 共同研究実施に伴うサポート人員の人件費



調達・施設管理業務を行う人員

### D. 共同研究実施に伴うURAの人件費



共同研究実施の支援を行うURA

## 2. 費用の分析

# 費用の分析について

## 1. 直接経費

## 1. 間接経費

- どこまで分解するか？できるか？
- 共通的に発生する経費なので按分計算が必要で、合理的な配分基準を設定

# 共同研究間接経費について

共同研究実施に付随して追加的に発生するコスト（間接経費）

## A. 共同研究に供するスペースの維持管理費



建物・研究室・実験室等の維持管理

全学の建物のうち、共同研究に供するスペースの建物等維持経費相当額の一部を負担いただくもの

全学の建物750千㎡のうち38千㎡

### 【建物維持管理経費の例】

光熱水料（電気、ガス、水道）、修繕費（建物修繕等）、委託費（建物の環境維持）保守費

## B. 共同研究実施に伴うサポート人員の人件費



調達・施設管理業務を行う人員

全教職員のうち、共同研究実施に伴うサポート人員の人件費相当額を負担いただくもの

全教職員7千人のうち38人相当

### 【サポート人員の例】

事務局サポート人員、部局サポート人員

## C. 共同研究実施に伴う基盤的研究活動経費



図書館・電子ジャーナル・情報ネットワーク・スパコン等

大学全体として整備している基盤的研究活動環境（図書館、情報基盤センター）の維持経費相当額の一部を負担いただくもの

基盤的研究活動経費の11%相当

### 【基盤的研究活動環境の例】

図書館（電子ジャーナル利用料、図書購入費等）、  
情報基盤センター（キャンパス情報ネットワーク維持費、スパコンリース等）

## D. 共同研究実施に伴うURAの人件費



共同研究実施の支援を行うURA

本学の学術研究・産学官連携推進本部に配置しているURAのうち共同研究実施に関連した人員の人件費相当額を負担いただくもの

URA37人のうち3人相当

## 2. あるべき費用の算定

## 直接経費

### □ 人件費

- 指定共同研究に専ら従事する本学の研究代表者・研究担当者
- 指定共同研究の運営・管理に係る業務に専ら従事する本学の研究協力者

### □ その他の直接的な経費

- 設備費、謝金、旅費、消耗品費、役務費等

## 産学連携推進経費（間接経費相当）

→直接経費の一定率ではなくアワー・レートによる積算

### □ 人件費相当額

- 指定共同研究の実施に係る本学の研究代表者・研究担当者・研究協力者（承継職員）の人件費に相当する部分

### □ その他の直接経費以外に必要な経費に相当する額

- 施設及び設備の維持管理費、研究基盤の管理経費、事務管理費、研究の企画・立案、成果の管理・活用に係る経費等

# アワー・レートによる積算例

1. 全学の共同研究実施にかかる追加的に生じる付随コストを集計し、共同研究実施にかかった時間で割ることで、時間あたり単価(過去の実績額)を算定
2. 時間あたり単価に基づいて、あるべき単価として「教員単価」を設定
3. 「教員単価」に研究期間等を通じ、関わる教員数に応じて算定

## 数値例

### 「教員単価」構成内訳

- ①教員人件費相当額
  - ・教員の給与(時間単価)、エフォート率を考慮  
10,000千円
- ②共同研究実施に伴う追加コスト
  - ・スペース維持費…光熱水費、建物維持管理費、減価償却費  
5,000千円
  - ・サポート人員人件費…事務局・部局の事務系職員人件費  
5,000千円
  - ・基盤的研究活動経費…教育研究支援組織の維持管理費  
5,000千円
  - ・URA人件費  
5,000千円

追加コストの合計: 30,000千円

追加コストを集計(30,000千円)し、共同研究実施にかかった総時間(2,000時間)で割ることで、時間あたり単価を積算

### ○時間あたり単価

		教員人件費相当額	+	共同研究実施に伴う追加コスト
教授	20千円/時間	(7千円/時間)	+	13千円/時間)
准教授	15千円/時間	(5千円/時間)	+	10千円/時間)
助教	10千円/時間	(3千円/時間)	+	7千円/時間)

時間あたり単価に基づいて「教員単価」を設定

## 参考資料

「指定共同研究」について

# 名古屋大学 指定共同研究制度（概要）

## 《特徴》

### 《指定共同研究の指定》

・ 学術研究・産学官連携推進本部（以下「学術産連本部」）を含む横断的な体制により研究の企画及び立案並びに成果の管理及び活用等を行うもの指定共同研究として指定

### 《経費の負担》

・ 指定共同研究の相手方は、当該共同研究に係る直接経費及び産学連携推進経費を負担 ※右覧「必要な経費」を参照

### 《研究のマネジメント管理》

・ 指定共同研究ごとに推進協議会を設置し、当該共同研究の企画及び立案並びに成果の管理及び活用を実施  
・ マネジメント管理は、学術産連本部が協力

### 《研究の成果管理》

・ 指定共同研究によって得られた研究成果は、共同研究契約に基づき適正に秘密保持及び管理

### 《研究の実施と成果の報告》

・ 研究代表者は、指定共同研究が完了したときは、共同研究者と協力して実施報告書を作成し、部局長に提出・部局長は当該結果を本部長に報告、本部長は総長に報告

研究開発法人  
民間企業等

シーズ

ニーズ

コーディネート

組織×組織

## 《必要な経費》

### ・直接経費

指定共同研究に専ら従事する研究者や研究の管理運営者の人件費、並びに当該研究のための設備費、謝金、旅費、消耗品費、役務費その他の直接的な経費

### ・産学連携推進経費

指定共同研究の実施に係る研究者や研究の管理運営者（直接経費計上者を除く）の人件費相当額、並びに当該研究の実施に係る施設及び設備の維持管理費、研究基盤の管理経費、事務管理費、研究の企画及び立案並びに成果の管理及び活用に係る経費その他の指定共同研究の遂行に関連して直接経費以外に必要な経費の相当額

### ◎産学連携推進経費はアワーレート方式により積算

共同研究実施にかかる追加的に生じる付随コストを集計し、共同研究実施にかかった時間で割ることで、時間あたり単価＝教員単価を設定

「教員単価」に研究期間等を乗じて関わる教員数に応じて積算

名古屋大学  
NAGOYA UNIVERSITY

学術研究・産学官連携  
推進本部

推進協議会

必要な経費

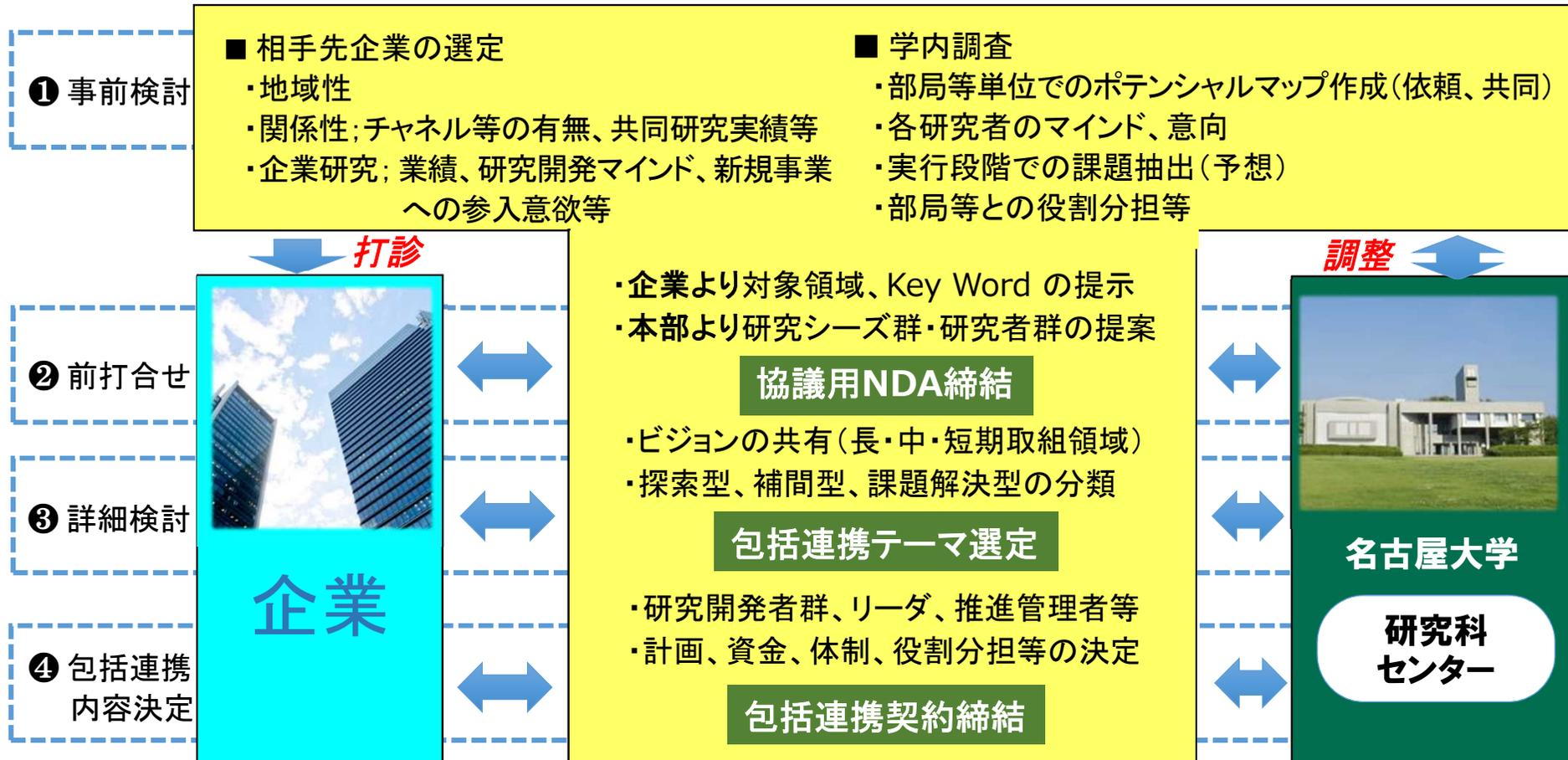
研究の進捗管理

研究の成果



# 本部先導による指定共同研究の創出

## 名古屋大学 学術・産連本部



三位一体による指定共同研究の開始、推進

# 名古屋大学における本格的な共同研究 〔指定共同研究制度〕

## 共同研究

○従来の共同研究

○将来の産業構造の変革を見通した革新的技術の創出に向けて、将来のあるべき社会像等のビジョンを共有し、共同して行う研究

継続実施

**「指定共同研究」として指定**

学術産連本部\*を含む横断的な体制により研究の企画・立案、成果の管理・活用等を実施

\*学術産連本部＝学術研究・産学官連携推進本部



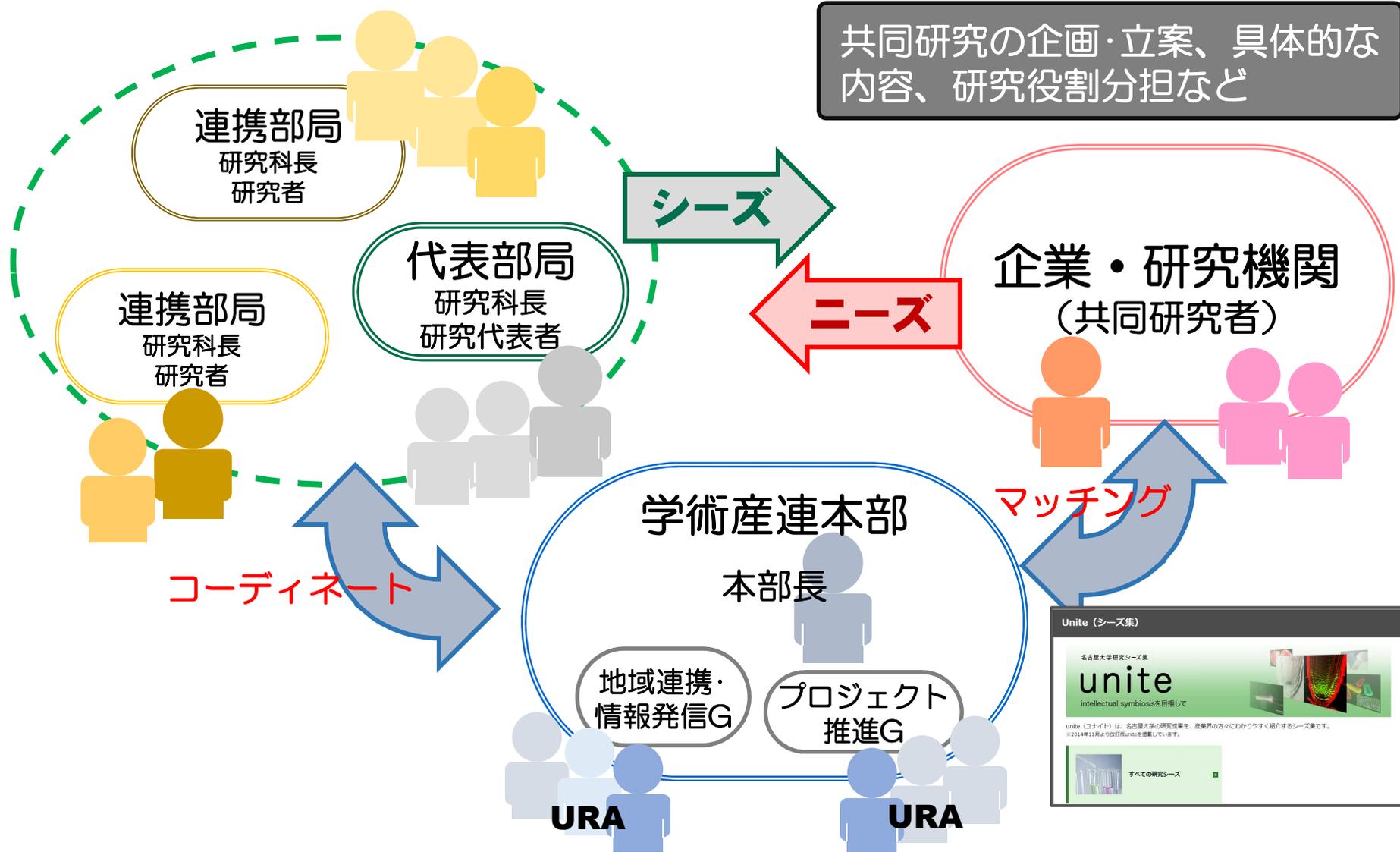
# 指定の要件

- (通常の)共同研究の実施基準(大学の業務か、本学の研究教育に効果的か、他の業務への影響、など)をまず満たしていること
- 研究の企画及び立案並びに成果の管理及び活用が適切に行えるよう、学術産連本部その他の部局との横断的な体制がとられていること
- 研究に従事、参加又は協力する者が当該研究の実施により知り得た情報について、適正に秘密を保持し、管理できる体制がとられていること

など

学術産連本部が審査 → 上記条件の具備を確認  
「指定共同研究」として実施を決定

# 組織として受入れの検討



# 研究のマネジメント管理



## 推進協議会の設置

### 【構成員】

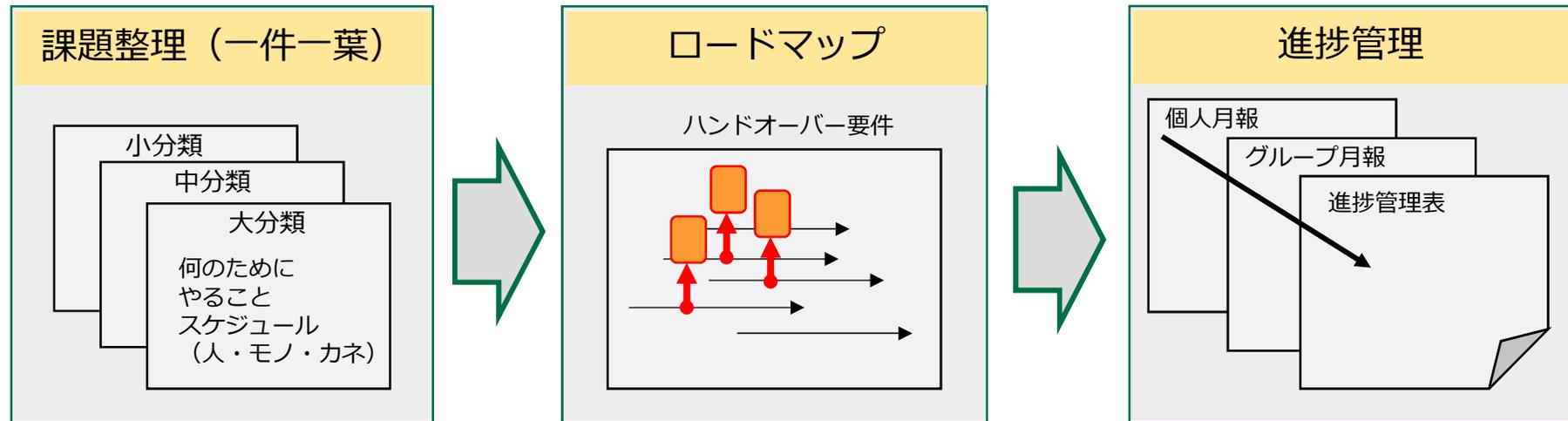
- ・ 学術産連本部 本部長又は副本部長
- ・ 本部長が指名するURA
- ・ 部局長又は部局長が指名する者
- ・ 研究代表者
- ・ 研究代表者が指名する研究担当者
- ・ 共同研究者が指名する者

### 【役割】

- ・ 研究の企画・立案
- ・ 研究の進捗管理
- ・ 研究成果の管理・活用の推進

# 進捗管理・成果の明確化

【プロジェクトの進捗管理；参考例】ただし、行き過ぎた数値目標管理ではない



## 【研究成果】

